

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



# 日本LD学会会報

第42号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内

〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギシヨウビル2F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-1213

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/>

## クリニックからクラスへ・実践研究を求めて

名城大学

神谷育司

LD学会の機関誌「LD研究」では年間の発行が3冊になることを契機に各巻の第1号を実践報告特集号とするとし、「実践報告」論文の投稿についてのお知らせがある。

既に第11巻1号には7編の実践報告例が掲載されている。今後、指導方法や指導プログラム等の実践報告例が掲載され、ひいては現場の実践活動がより一層活発になり、支援活動が展開していくことを切に期待するものである。

愛知教育大学が主催した、2001年の第43回日本教育心理学会での準備委員会企画によるシンポジウムは指定討論者の上野等により「学習障害児の課題と現状」が採り上げられている。

企画の趣旨は教育現場にLDへの取組みの必要性の認識はかなり浸透して来た観があるものの、今後の課題としてはLD児への理解や啓発をより一層教育現場に広めると同時に一步進んだ具体的な指導方法や指導のプログラムと言った実践的な研究が必要であるとの観点からなされたものである。

21世紀の教育は一人ひとりの子どもの個に応じた人間性尊重の教育である。従来の特殊教育と言った狭い枠でなく、むしろ枠を取り外した通常の学級との連続性の中での特別支援の教育体制が求められている。

文部科学省の特別支援対策として実施された15地方公共団体でのモデル事業では、学級内でLDと気付かれた子どもは校内委員会で、より詳細に実態の把握に努め、専門委員会に付託し、具体的な指導の方策が進められる体制が示唆されている。このモデル事業が具体的な支援対策として全国的なレベルとして普遍化していくためには、なお今後幾多の問題点は抱えているであろうが、「クリニックからクラスへ」の時代としてLDを含めた軽度発達障害を対象とした教育体制が学校教育現場に浸透していくことが肝要である。そのためには実践的な研究成果はその道しるべとして大いに役立つであろうことは言を待たないし、研究者が現場教師とともに手を携えて進むべき方向性である。